

「ヒマラヤひだ」と PTSD のこと

OWCC 中川和道 20190619

第1次世界大戦から帰還した兵士が心の負荷を訴えたことをきっかけに、心的外傷後ストレス障害（Post-Traumatic Stress Disorder PTSD）の研究がはじまったという。地震や津波など災害によっても起きる。中川は1983年3月20日鹿島槍ヶ岳北壁正面ルンゼ登攀中になだれにやられ[1, 2]、PTSDをおこした。登山者は危険にあう可能性がゼロではないので、ひょっとして、何かの参考になるかもしれない。

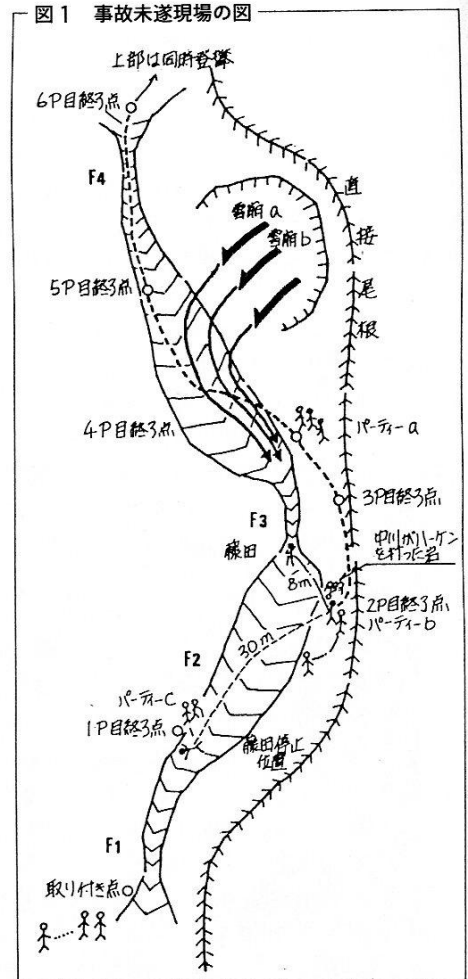
あの時は、40cmの降雪の直後、快晴の北壁だった。星稜登高会のFさんと中川で正面ルンゼに2番目で取付き、つるべ登攀でF₁、F₂を順調に突破し、Fリードで垂直の氷瀑F₃の登攀を始めた。8:30頃に正面ルンゼ真上の雪面に太陽光が照射され、雪崩a、雪崩b、さらに何回もヒマラヤひだナダレが続発した。その真下を登っていたFはナダレの直撃を必死に耐えたが、ついに、はたきおとされ、16mをほぼ空中墜落した。中川はスタンディングアックスピレイ SAB をしたが巻き込まれ、セルフピレイの縦ハーケン1本にぶら下がりロープにブレーキをかけつつ30mを繰り出し、ついに停めた。生還した。

PTSDは東京に帰って2週間ほど後に起きた。近所のおばあちゃんが朝、打ち水をする、その音に、中川の体が無意識にとびのくのである。あれ？何じゃ、今のは？次に来たのは水洗トイレの流水音に、びくっとか、ぞくっ、とする自分だった。動悸が高まりしばらく続く……。水道の蛇口からの流水音にも反応するまでに状況が進行した時には、さすがに、どうしようかと考え込んだ。83年当時はPTSDという言葉も意味も知らなかった。仕事が忙しく、次の山行が立て込んでいたからだろうか、何時しか、症状は消えた……。

83年3月当時、星稜登高会では中川、Fさんの他にもTさんが谷川岳で雪崩に埋まって九死に一生を得て

いた。Tさんは、一ノ倉沢出合に立つと、自分の意志とは無関係にハラハラと涙が流れ、体がガタガタと震える状況に悩まされた。今にして思えば、あれもPTSDそのものだった。

それ以来、「美しいヒマラヤひだ」は「悪魔のつめ跡」だと中川には見えるようになった。あの真下を中川とFさんは登っていたのだ……。そうそう、天狗の鼻におられた滝上肇さんに、「東京もんの無謀登山や」と、こってり、叱られましたっけね。



[1]『星稜』第11号、星稜登高会、1985年10月。

[2]日本勤労者山岳連盟『岩登りの確保技術』、日本勤労者山岳連盟技術委員会、1992年2月。